

## 委員会視察記録

委員会名	建設委員会				
期 間	令和7年10月14日～16日				
参 加 者	委 員 長	西原 明美	副委員長	田中 照彦	
	副委員長	小沼 秀朗	委 員	杉山 盛雄	
	委 員	宮沢 正美	委 員	河原崎 聖	
	委 員	相坂 摂治	委 員		
	委 員	四本 康久	委 員	伊藤 和子	
視 察 先	1	北海道庁（北海道札幌市中央区）			
	2	北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎） (北海道札幌市中央区)			
	3	北広島市役所（北海道北広島市）			
	4	北海道ボールパークFビレッジ（北海道北広島市）			
	5	国道5号俱知安余市道路新稻穂トンネル仁木工区 (北海道余市郡仁木町)			

### 視察の概要

10月14日（火）

■ 北海道庁

■ 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）

当初搭乗を予定していた航空機欠航（10月14日FDA163便）による日程変更のため視察中止。

10月15日（水）

■ 北広島市役所

＜概要＞

北広島市は、新千歳空港と札幌市の中間に位置する交通利便性のよい人口約5万6000人のまちである。

新球場ES CON FIELD HOKKAIDOは、日本初の開閉式屋根を取り付けた天然芝フィールドで、令和2年4月に新球場に着工、令和5年1月に竣工し、令和5年3月に新球場を核とした北海道ボールパークFビレッジが開業した。

新球場の建設費約600億円及び運営費は民間が負担している。一方、北広島市は周辺道路や上下水道整備などのインフラ整備等を行った。

進化し続けるボールパークづくりを目指し、Fビレッジのエリア計画（2023～2042年）を4年ごとに1フェーズとして策定している。

フェーズ1（2023～2026年）では、新球場に隣接する沢エリアを中心に整備し、フェーズ2（2027～2030年）では、JR新駅や北海道医療大学を含め



たにぎわい創出がポイントとなっている。

新球場内には、世界初の球場内温泉・サウナ施設、世界初のビール醸造所を兼ねたブルワリーレストラン、フードホール等がある。

F ビレッジ内には、子供の遊び場、いつでも気軽に野球が楽しめるキッズプレイフィールド、農業学習施設、宿泊施設、飲食施設、分譲マンション、病院付きシニアレジデンス、認定こども園、商業施設があり、1つの町のような空間となっている。

株式会社クボタが運営する農業学習施設 KUBOTA AGRI FRONT には、農業経営シミュレーションゲームができる施設があり、北海道内から教育旅行等に訪れている。

令和元年7月にボールパーク構想の推進と北海道の価値魅力向上を目指すため、北広島市とファイターズスポーツ&エンターテイメントが事務局となり、近隣市町村と国、北海道、民間事業者で「オール北海道ボールパーク連携協議会」を立ち上げた。現在41団体により構成され、市町村で構成する「北海道ボールパーク圏域連携勉強会」や「食と観光分科会」、「スポーツ・人づくり分科会」、「交通分科会」のテーマ別分科会により諸課題の解決に取り組んでいる。

北海道、北広島市、ファイターズ等で大規模災害における相互連携に関する覚書を締結しており、新球場は避難場所として指定され、北海道の備蓄品を備えた備蓄倉庫も整備している。

北広島市と球団でパートナーシップ協定を結び、学校での野球講座、試合への学校招待、成人式、食育講座等を連携して開催している。

#### <主な質疑応答>

Q 野球場ができたことにより北広島市の人口は増えたか。

A 人口は微減している。

北広島市は高齢化率が高く、転入者は増えているが、自然減が多く転入増が少し追いつかない状態である。

Q F ビレッジ完成後、住民からどのような声が出ているか。

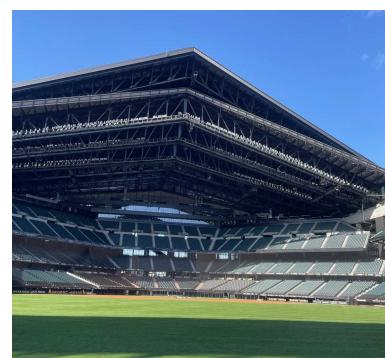
A 試合日の混雑、迷惑駐車など交通関係に関する声が一番多い。

Q 住民への配慮はどのようにしているか。

A 電話やホームページに入った苦情等に対しては、必ず現場に行って対応している。

### ■ 北海道ボールパーク F ビレッジ

スタジアムツアーリーに参加し、ES CON FIELD HOKKAIDO を中心にF ビレッジを視察した。



## ■ 国道5号俱知安余市道路新稻穂トンネル仁木工区

### <概要>

俱知安余市道路（延長39.1km）、蘭越俱知安道路（ニセコ～俱知安：延長11.7km）は、北海道横断自動車道のうち、ニセコ町から余市町までを結ぶ自動車専用道路である。本道路は、後志地域と札幌市、新千歳空港などを結び、後志地域



の多様な農水産物の輸送支援、ニセコ観光圏などの観光振興、有珠山噴火等の災害時の代替路の確保に寄与することを目的としている。

俱知安余市道路新稻穂トンネルは、北海道岩内郡共和町と余市郡仁木町の間に新設するトンネルであり、コスト縮減や工期短縮のため、上下線セパレート方式を採用している。また災害発生時には反対側のトンネルが避難トンネルとして機能する。

R側は、全長3,862mで平成30年から令和4年で掘削が完了し、現在は覆工コンクリート工事が行われている。L側は全長3,826mで、現在仁木工区1,724mと共和工区2,102mに分かれて掘削作業を行っている。

北海道開発局では、道路、トンネル、橋、ダム、港湾などの公共施設を活用したインフラツアーリズムに取り組んでいる。旅行会社等が見学可能施設をツアーに組み、北海道開発局の職員がふだんは非公開となっている工事現場等も案内し、公共施設の役割や重要性について解説している。

国道5号俱知安余市道路では、仁木トンネル工事との2か所をツアーリズムに組み込み、トンネル現場視察やVR体験会を行っている。

### <主な質疑応答>

Q インフラツアーリズムの参加者の状況は。

A 募集と同時にすぐ予約が埋まる。今年はほとんどが60歳以上だった。

Q リクルート活動の取組状況は。

A 高校や大学を訪問している。今年は高校生が現場を視察した。